

▼東海

テニス活動便り

東海民放クラブ テニス部幹事

荒川 戰一(CBC)

平均年齢80歳を超えて、テニスコートに立てるのは幸せである。

それぞれが体に故障を抱えてはいても、そこを上手く折り合いをつけながら継続するのが一番である。高齢になり、それぞれ事情があつて、一度止めてしまうと復帰するには相当な根気と時間が必要で、若い時から一緒にプレイをしていた仲間も数人がコートを去っている。10年以上前には十数名が2面を借りて走り回っていたのが、今や何名来るのかが大問題。

1面、2時間のコートを予約し、1試合6ゲーム先取が基本だが、4ゲーム先取も厳しい時は4ゲームで終了。これを3~4試合。ダブルスなので4名は確保したいが、当日キャンセルの人もあり、やむを得ず3人変則マッチを行う。これがまた相当ハードで1人側はシングルスコートを守り、攻撃は2人いるダブルスコートへ。2人側はダブルスコートを守り、攻撃時はシングルスコートとなる。1ゲーム

ずつ交代で、ダブルス時にナイスショットを決めたと思いきやシングルスコート外でアウト。その都度コート確認をしないと勘違いをする。

スポーツの中でもテニスは、より頭を使うともいわれるのでは、高齢者向きかも? 気力、体力、視力、技術、経験、さらにあくなき向上心が必須条件である。

先日、レギュラーメンバーとプレイをした際、調子は悪くなかったのにイージーミスをする。相手の動きも、どのコースに返球されるのかも読めて、的確に打つたつもりがネットに引っかかたりオーバーをする。この日はいつも楽勝の相手にも負ける。何故だ。プレイ中何度も考えたが分からぬ。これがスランプか、いやそれほどのレベルでもないし…。

帰宅途中、これまでと何が違うのか、あれこれ思いめぐらすと分かった!!

冬は手袋をしてプレイをする時もあるが、この日は特に寒く、まず薄手の布製の手袋をして、その上に革製の手袋をしていた。これが微妙に影響していた。

よくプロ野球の選手がバットをオーダーする際、グリップの太さ

をミニ単位で指定するが、納得した。テニスラケットも購入時に数本を握り、素振りをして手にしつくりくるかを確かめる。

また、自分に合うように薄いグリップテープを巻いたり、全く新しいテープを巻き直したり、フォア・バックの握りの位置も長め、短めと変えることで打ち方を変え

る。

試合前のウォーミングアップでは、ただ漫然と打ち合うだけではなく、試合を想定して相手の弱点を見つけたり決め球を試したりする。と言つても長年プレイをしている仲間ではお互い知り尽くしているので工夫が必要。これが上手いくとより楽しくなる。研究熱心なFさんは「サーブをより強く」と打ち方を変えたものの、最初は逆にこれまでより弱いサーブになつて軽くレシーブされ惨敗が続く。それでもめげずに続け、ようやく納得がゆくまでに3年

ち勝つ精神力がいる。Fさんに拍手だ。

毎週1~2回、愛知学院大学傍の口論義(こうろぎ)コートで2時間、隣のコートでリズミカルに小気味よく打ち合う音にめげず、不協和音を交えてプレイをしてい

る。テニスには新たな発見がまだまだある。奥が深い。その未知なる奥をもっと見たいし確認もしたい。老け込んではいられない。

